開校記念日によせて

令和７（２０２５）年４月１４日

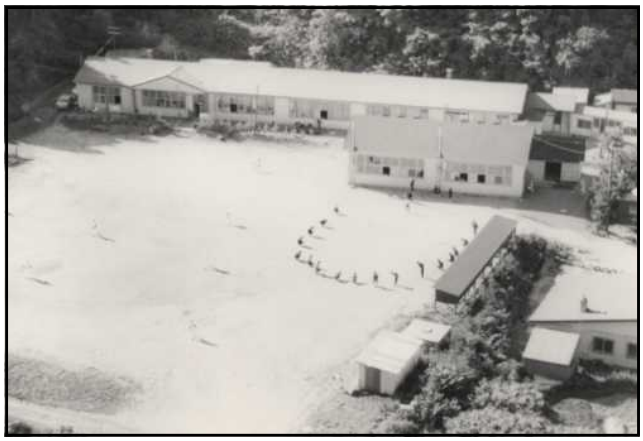
北海道奥尻高等学校は、昭和５０（１９７５）年に北海道江差高等学校奥尻分校として開校しました。それまで、奥尻の人たちの高校進学は島外の高校か、有朋高校の通信制に進学するしか方法がなく、高校進学には大きな負担をともないました。奥尻町では高校進学希望者の増大に対応して、昭和４３(１９６８)年から高校開設の陳情運動を行い、長い熱心な運動の成果として、分校設置が実現しました。

続いて、昭和５２（１９７７）年には北海道奥尻高等学校として江差高校から分離・独立して北海道奥尻高等学校となりました。開校当時の奥尻高校は、現在と異なる場所（字赤石１４４、今の奥尻町町民センター）にありましたが、昭和６２(１９８７)年に現在の場所に移転・改築し、今日に至っています。

平成２８（２０１６）年には、地域に根ざした教育の推進を目的に、北海道立から奥尻町立に移管されました。このときから島の生徒と全国から集う生徒がともに学ぶ新しい高校としてスタートし、今日に至っています。

４月１５日は、昭和５０(１９７５)年に分校の開校式が行われた日です。その日を記念して、奥尻高校の開校記念日としています。令和７(２０２５)年度は創立５０周年、そして令和８(２０２６)年度は町立移管１０周年の節目を迎えます。

開校記念日には本校を作った人たちの思いをしのび、全国から集まる仲間との学びを深める決意を新たにしてください。



↑開校当時の本校校舎

校章の由来

奥尻の初夏、浜辺に咲くハマナスの花と三葉を組み合わせ、上部に学生のシンボルであるペンを配し、日本海の荒波の上に高等学校の「高」の字を配置図案化したものである。

- ハマナスは日本海の荒波・潮風の厳しさにも耐える強い意志力と、深い緑の葉陰に咲く花はやさしさを意味する。
- ペンは生徒の本分である学業を意味する。
- 波は日本海の荒波と離島を意味し、厳しさとそこに雄々しく生きる勇姿を意味する。

奥尻高校のあゆみ

昭和50年 4月 1日	**北海道江差高等学校奥尻分校として開校許可**
昭和50年 4月15日	開校式並びに入学式挙行（入学生43 名）
昭和51年11月25日	校歌制定
昭和52年 4月 1日	**北海道奥尻高等学校開校許可**
昭和52年 4月15日	開校式挙行
昭和53年 3月10日	第1 回卒業式挙行
昭和54年 3月23日	校舎増築工事（体育館他 1,070.83 ㎡）完成
昭和62年 6月30日	創立12 周年・開校10 周年並びに 校舎改築落成記念式典挙行
昭和64年 1月 6日	屋外プール新築工事完成
平成 7年12月12日	校訓（創造、自律、実践）の制定
平成19年10月27日	開校30 周年記念式典挙行
平成28年 4月 1日	**北海道奥尻高等学校町立移管、 まなびじま奥尻プロジェクト開始**
平成28年 8月29日	全国からの生徒募集を開始
平成29年 4月 1日	連携型中高一貫教育導入、島留学制度開始
平成31年 4月 1日	まなびじま松風寮完成、 2019 年度入学者より入寮開始
令和 4年 1月13日	令和３年度文部科学大臣優秀教職員表彰受賞